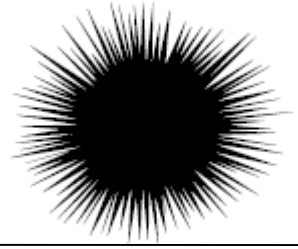


キタムラサキウニ

Storonylocentrotus

nudus

地方名
のな、くろかせ



生態

寿命：14～15歳程度
 成熟：殻径4cm以上
 産卵期：7月～10月（水温15～20以上）
 生態：ふ化後約1ヶ月の浮遊生活後着底。3～23の水域に生息すると言われる。青森県では各沿岸海域の潮下帯から水深数十メートルにかけての岩礁や転石に広く分布する。成体期にはコンブ類やホンダワラ類の海藻類やそれらの流れ藻を餌料とする。

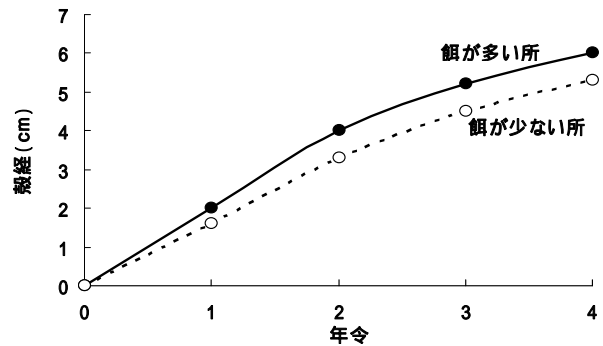


図 青森県キタムラサキウニの成長

主な漁業

下北半島沿岸ではウニ籠で、津軽半島沿岸ではけた曳き網で漁獲されている。下北半島から太平洋沿岸の浅所では潜水採捕されるほか、各沿岸では鉾突き、たもすくいなどで漁獲される。一般に身入りが良くなる春から初夏に多く漁獲される。

資源評価

昭和54年に1,894トン記録した後、徐々に減少し、近年では900トン前後で推移している。

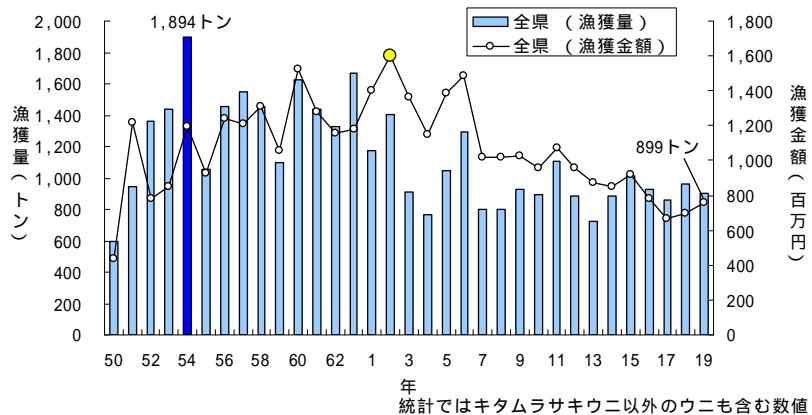


図 青森県キタムラサキウニの漁獲量及び漁獲金額の推移



資源を上手に利用するために

身入りが少ないいわゆる「空ウニ」を雑海藻場に移植することにより身入りを高めることができる。同時に、マコンブに対するウニの食害を減らすことができる。